

## 令和5年度第4回神奈川県環境影響評価審査会議事録

- 1 日 時 令和5年7月27日（木曜日） 14時から14時39分
- 2 場 所 神奈川県庁東庁舎11階 111～113会議室及びWeb会議
- 3 出席委員 一ノ瀬友博【会長】、奥真美、金子弥生、小林剛【副会長】、酒井暁子、鈴木秀和、鈴木洋平、高橋章浩、二宮咲子、速水洋、廣江正明、吉田聡
- 4 傍聴人 4人（一般傍聴人の定員4人）

### 5 議 題

#### (1) 対象事業の審査

小田急電鉄総合車両所移転計画 環境影響予測評価実施計画書について

#### (2) その他

### 6 審議概要

#### (1) 対象事業の審査

小田急電鉄総合車両所移転計画 環境影響予測評価実施計画書について

(事務局)

資料1-1「小田急電鉄総合車両所移転計画 環境影響予測評価実施計画書に係る審議資料」について説明。

(一ノ瀬会長)

ただ今、説明のあった内容について、いかがでしょうか。特に確認事項等、よろしいですか。

(各委員)

質問等なし

(一ノ瀬会長)

それでは、答申案の審議に入りたいと思いますので、事務局は答申案を読み上げてください。

(事務局)

資料1-2「小田急電鉄総合車両所移転計画 環境影響予測評価実施計画書に係る答申案」について説明及び読み上げ。

(一ノ瀬会長)

それでは、事務局で欠席の委員から御意見は預かっているのでしょうか。

(事務局)

欠席委員からお預かりしている御意見等はありません。

(一ノ瀬会長)

それでは、この答申案について、御意見をいただければと思います。委員の皆様、いかがでしょうか。

特にご意見ございませんか。

(各委員)

意見等なし。

(一ノ瀬会長)

そうしましたら、特に御意見ございませんでしたので、答申案についてはこの原案どおり修正なしとしたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(一ノ瀬会長)

そうしましたら、この案件については以上として、これをもって答申といたします。

(2) その他

(一ノ瀬会長)

次に、事務局から報告の申出がありますので、これを受けたいと思います。事務局、お願いします。

(事務局)

「ごみ中間処理施設整備事業 事後調査報告書（第2回）」について内容説明。

(事務局)

本日御欠席の袖野委員から、この事後調査報告書の廃棄物の部分に関して、事前に御質問をいただいております。44ページをお開きください。それでは、袖野委員からの御質問を読み上げます。

事後調査報告書の44ページにおいて、発生量とリサイクル率についてご報告いただいております。処理状況については予測どおり、又は、より環境負荷の低い実績になっていると読み取れます。一方、予測に対する発生量の見通しについての評価はいかがでしょう。工事の内容によって発生する廃棄物は異なるので、15か月分は単なる参考値にしかありませんが、廃プラスチック類は今回の事後調査期間中に全期間の予測発生量のほとんどが排出されているようです。こうした廃棄物発生量の見通しが予測通りなのか、予想外の廃棄物の発生があったのかなど、事業者にとっての評価をお聞かせください。

袖野委員からの御質問は以上です。次にこの御質問に対して、事業者から回答をいただいておりますので、読み上げます。

工事中の廃棄物の予測は、廃棄物処理施設の建設に伴い発生する廃棄物について、「建築系混合廃棄物の原単位調査報告書」（平成24年、(社)日本建設業連合会）これに示された発生原単位を用いて、種類別排出原単位を算出し、その値に延床面積を乗じることにより算出しています。

令和4年度末までにおいては、造成工事が中心となっており、本格的な施設建設に着手していませんので、今後、施設本体工事が進捗するにしたがって、予測結果に近づいていくものと考えていますが、できる限り廃棄物発生量の低減に努めます。

廃プラスチック類は、造成工事の際に発生したトン袋であり、予想外の発生となりますが、分別を徹底し、再資源化に努めることにより、実行可能な範囲でできる限り低減されていると評価します。

事業者からの回答は以上です。

(事務局)

「三浦市三戸地区発生土処分場建設事業 事後調査報告書（第14回）」について説明。

(事務局)

「佐島の丘開発事業 事後調査報告書（第22回）」について説明。

(一ノ瀬会長)

以上、3件報告をいただきました。質問、コメントございましたら、よろしくお願いします。

廣江委員、お願いします。

(廣江委員)

騒音・振動を担当しています。緑色の冊子のごみ中間処理施設整備事業について確認させてください。31ページの騒音の検証結果には交通量の予測条件と事後調査の実際の交通量が記載されていて、いくつかの地点で数値が大きくなっています。専門外になりますが、先ほど大気の調査結果が予測を超えた複数地点での交通量はどのようなのですか。大気の調査結果について、原因となる交通量等との関連をきちんと抑えた上で、先ほど御報告のあったな「十分な対策を行った結果である」という結論に達しているのでしょうか。専門外ではありますが、お伺いしたい。

(事務局)

大気先ほどのデータに関しまして、関連するのが16ページになります。車両の台数については、交通量全部ということではなく、工事用車両の台数で予測条件と事後調査期間の数字ということで比較を載せております。工事用車両の台数としては予測の時よりは減っているということで、これは、工事用車両の分散といった対策をとった結果ということになると思います。一方、測定結果としては上回ってしまったということで、上回ってしまった原因としては、冬場の大気汚染物質の拡散しにくい、比較的濃度の上がりやすい条件下での測定であったということで、こういう結果になってしまった。台数の比較では予測の時よりも減っているというのもあり、必要な対策はとれているという評価になっているかと思えます。

(廣江委員)

分かりました。ありがとうございます。

(一ノ瀬会長)

ほかにいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

特にないようでしたら、この3件の報告については、ここまでとしたいと思います。

本日の議題は以上ですが、ほかに何かございますか。

それでは、本日の審査会は以上で閉会いたします。

以上